

洞爺湖産芋焼酎の試飲会開催



芋焼酎の試飲会

とうや湖農業協同組合（ＪＡとうや湖）が栽培したサツマイモを使った芋焼酎の試飲会が12月16日、小樽市内で行われました。

ＪＡとうや湖は、遊休農地の活用を目的に2023年からサツマイモの試験栽培をスタート。24年に30トを収穫しました。

試験栽培は、農業の6次産業化も目的としており、今回は収穫したサツマイモで芋焼酎を試作。小樽市内の酒造会社

社が製造し、米こうじ60%、サツマイモ40%の配分としました。

試飲会には下道町長、ＪＡとうや湖の高井一英組合長など約10人が出席。「かどがなく、まろやかでおいしい」などと感想が聞かれました。

ＪＡとうや湖は、今年12月の発売を目指して準備を進めています（関連記事18ページ）

洞爺湖ビジターセンターが来館者100万人



100万人目の来館者となった上村さん（中）

洞爺湖ビジターセンターの来館者数が2月12日、100万人を達成しました。

記念すべき大きな節目を飾ったのは、神奈川県から訪れた上村透さん（38）。昭和

新山に訪れる途中に足を運んでくれたといい「突然のことで驚いています。ありがとうございます」と記念品を渡した職員に感謝を伝えていました。

洞爺湖ビジターセンターは2007年5月オープン。豊



来館者100万人を達成した洞爺湖ビジターセンター

富な資料を展示し、洞爺湖の成り立ちや有珠山噴火などを伝えています。2019年には90万人を達成していました。

1/23 カラオケや踊りで笑顔
老ク連の演芸交流大会

洞 爺湖町老人クラブ連合会（山田晃会長）の新年演芸交流大会が、洞爺湖文化センターで開催されました。各自治会から9クラブが参加し、演歌や日本舞踊など、日々の練習の成果を披露しました。また、昼食も用意され、参加者は一緒に食べながら近況を語り合うなど、楽しいひと時を過ごしました。

発表の最後には参加者全員で「北国の春」を合唱。大会を笑顔で締めくくりました。



練習の成果を披露する参加者

1/10 地方自治の振興に尽力
立野さん・皆見さん道社会貢献賞

北 海道社会貢献賞を受賞した立野広志さん、皆見亨さんが賞状の授与を受けました。立野さんは昭和62年5月に旧虻田町議会議員に当選以来、令和5年4月までの9期36年の永きにわたり、町政に参画し地域振興、住民福祉の増進に努めました。皆見さんは昭和57年に旧虻田町役場に奉職し総務部次長などを歴任。令和元年6月から令和4年6月まで洞爺湖町教育委員会教育長を務め、教育行政の発展に貢献しました。



賞状を受け取った立野さん（左）と皆見さん

1/30 オンラインでお互いを知る
箱根・洞爺湖4校合同交流会

虻 田小学校（横山慎二校長）の3年生が、姉妹都市・箱根町の3小学校とオンライン交流会を実施しました。箱根町との姉妹都市提携は60年を迎え、これまで中学生が両町を訪れて親睦を深めていましたが、小学生の交流は今回が初めてです。

児童は両町の特徴や観光についてのクイズをパソコンで回答。クイズ終了後、出題されたクイズについて各校からそれぞれ解説し、理解を深めました。



パソコンでクイズに回答する児童

1/27 地域の防災のために
町と玄米酵素と防災協定

町 と玄米酵素（札幌市）が「災害時における避難所としての施設利用に関する協定」を締結しました。

協定により、同社の洞爺地区の宿泊施設で避難者を受け入れられるようになりました。定員は約30人ですが、大広間の開放により大勢の避難も可能になります。地区内では、民間事業者の協力で避難所を確保するのは初めてです。鹿内正孝社長は「避難が必要になれば喜んで施設を提供します」と話しました。



協定を結んだ鹿内社長（左）と下道町長